

調停の進め方（当事者）

- 1 配付資料「賃貸借契約書」「調停シナリオ」「貸し主（借り主）の考え方」「調停って何？」を読んで、どういう理由で、どういう言い分を調停委員に訴えるか考えてみましょう。

申立人、相手方はそれぞれ待合室に集まっています。待合室で、同じ役の人同士、また、待合室にいるアドバイザーの弁護士も入れて、何を主張するか、作戦を話し合ってもかまいません。

最初に訴える言い分が決まったら、ワークシートにまとめましょう。

- 2 調停室に呼ばれたら、決めた言い分を伝えましょう。調停委員から聞かれたことには、できる限り答えてあげて下さい。ただし、配付資料「調停シナリオ」「貸し主（借り主）の考え方」は、当事者自身が体験し、考えたことの内容という設定ですので、これらを調停委員に示すことはしないで下さい。

- 3 調停委員が、もう一方と話をしている間あるいは調停委員同士で評議している間は、待合室で待っていて下さい。

- 4 調停委員が双方の言い分を聞き終わると、評議の上、解決のための提案があると思います。その内容や、調停委員から聞いた相手方の言い分は、ワークシートにまとめましょう。これらに対してどのように回答するか、こちらの言い分をどのように変え、あるいは譲るか考えてみましょう。

待合室で、同じ役の人や、アドバイザーの弁護士と相談しながら考えてもかまいません。

調停委員への回答や、こちらの言い分を変えたり譲ったりするところも、ワークシートにまとめましょう。

- 5 調停委員に呼ばれたら、上で考えた回答や、こちらの言い分を変えたり譲ったりする内容を伝えましょう。

もう一方とくいちがいや対立が残っていたり、どちらかの当事者から解決のための新しい提案や条件が出たりしたら、調停委員が調整をはかると思いますので、その指示に従って協議して、合意のための努力をしましょう。

- 6 これでトラブルを解決する、という内容が決まったら、その内容をワークシートにメモし、調停委員と一緒に、調停委員のワークシート「調停条項」の形にまとめましょう。

- 7 合意できなかった場合、どの点がどのようにまとまらなかったのかを、ワークシートにまとめてみましょう。調停委員からは、「決定」として、調停委員が適切と考えた解決案が示されるので、その内容についても考えてみましょう。